

6 研修修了者からのメッセージ

カタオカステーブル 〔取材記事〕

谷口雅之 第16期修了者（平成12年修了）

カタオカステーブルは新ひだか町静内豊畑地区に位置し、生産から育成、さらには北海道競馬の認定厩舎として現役競走馬の調教まで手がけている牧場です。牧場は繁殖・中間育成および育成調教のそれぞれの部門に分かれており、谷口さんは育成調教を担当しています。就労してから8年が経過し、「厩舎長として一つの厩舎を任せてあります。中堅の時期を抜けてもうそろそろベテランですよ。」と取材先のカタオカステーブルの片岡拓章専務は語っておられました。取材時には「第1厩舎責任者谷口雅之」と表札の揚がった厩舎に、南関東で活躍しているシーチャリオットとアジュディミツオーも休養中でした。

谷口さんは神奈川県出身で、競走馬にあこがれて浦河の生産牧場に就職しました。当時、谷口さんは視力が非常に低く、就労することに大変苦労したそうですが、地道に貯金したのと馬が助けてくれたことで手術資金を捻出し、視力回復手術を受けることができたそうです。視力が良くなったことで競走馬への調教騎乗も可能となり、どこで馬に乗せてもらおうかと考えていたところ、ほんの数キロしか離れていない場所に研修施設があって丁度研修生を募集していると聞き研修へ入講しました。

競走馬を扱った経験があり、厩舎作業にも慣れていたので、研修は苦しいものではなかったのですが、24歳で初めて騎乗した馬のコントロールは難しく、同期の10代の若い研修生たちがどんどん上達する中で思い通りに行かなかったそうです。しかし、少しずつ上達して今では「まあ、何とか乗っていただけるレベルにはなっ

た。」そうです。

これからも馬を上手に成長させるとともに、人についてももっと成長させることを目標にしたいそうです。そして同期の皆さんに、「健康第一で頑張りましょう。」との言葉をいただきました。



カタオカステーブルで調教する谷口さん

新和牧場

新和牧場はサクラの冠名のついた「さくらコマース」の所有馬を多く管理し、谷岡牧場新和分場を経て谷岡牧場から独立した牧場です。生産から育成・休養まで幅広く手がけており、北海道新ひだか町の本場のほか、福島県の天栄ホースパークの分場や浦河のJRA日高育成総合施設軽種馬育成調教場（以下、BTC調教場）でも調教を行っています。今回は本場に勤務されている2名を取材しました。

宮内 崇 第16期修了者（平成12年修了）

宮内さんは育成調教の担当で、前出の谷口さんとは研修で同期生でした。取材当日は早朝に新ひだか町静内の新和牧場での騎乗後に浦河まで移動し、BTC調教場で騎乗してから午後に再び本場に戻っての騎乗と忙しく過ごしていました。

東京出身の宮内さんは当初馬とのつながりが全くなく、北海道旅行の時に馬を見てさわらせてもらい、あこがれを感じて牧場の門を叩きましたが、雇ってもらえず代わりに当センター等が実施している養成研修を教えてもらったことがきっかけだそうです。

研修に入講してからは体が硬いために騎乗するのに苦労したそうですが、優秀な成績で修了することができ、アイルランドの競走馬厩舎での3ヶ月間の研修にも参加しました。アイルランドの研修では、始めて触る現役競走馬の力が強く、これまで研修中に騎乗した教育用馬や若い育成馬との違いに扱いがうまくゆかず何度も挫折感を味わったそうです。

就職した当初もなかなか騎乗技術が上達せずに苦労したそうですが、幸い牧場には練習に使うことのできる乗馬が繋養されており、調教でみんなの足を引っ張ってはまずいと練習に励んだそうです。その努力の甲斐あってか現在は20馬房を管理する厩舎長になっており、「仕事は忙

しいですが、たくさんの馬を調教できるのは楽しいです。」と話していました。

また、2児の父となった今は時間のある時に子供を乗馬訓練に送り出し鍛えているそうです。取材時は前出同期の谷口さんと馬の調教に加え、子育てについても情報交換をしていました。プライベートでの楽しみは家族で行く温泉で、リラックスするそうです。「人も馬も幸せになるためには、やはり結果を残していくことが大切です。」とこれからの目標を話していました。



研修時代の宮内さん（左） 谷口さん（右）



BTC調教場 1,600mトラックで調教する宮内さん

田淵 顕也 第19期修了者(平成14年修了)

田淵さんは、北海道追分町(現安平町)の出身で、小・中学生の頃から馬と競馬に興味を持つようになり、実家からほど近い大手牧場へ馬を見に出掛けていたそうです。高校時代の長期休暇には牧場のアルバイトとして競走馬との付き合いが始まりました。しかし、素人の高校生アルバイトに馬主から預かっている大切なサラブレッドの扱いを簡単に任せてもらえるはずはなく、颯爽と馬に跨り暴れる馬をいとも簡単に扱う従業員を眺めていたそうです。そんな中、どうやったらプロとして馬に乗れるかを考えていたときに牧場の従業員から「浦河のBTCに馬の学校があるから行ってみたら良い。」と紹介され、BTCの養成研修に入講することとなりました。研修中は初めて扱い騎乗する馬に圧倒され、なかなか騎乗技術が上達しないことに落ち込んだりもしていました。新和牧場への就労前には宮内さんと同じようにアイルランドの競走馬厩舎での3ヶ月間の研修に参加しました。アイルランド研修では、馬の健康とリラックスの重要性について学んだそうです。また、研修中には本年GI競走を勝ちまくっているジョニー・ムルタ騎手と一緒に調教したり、プライベートではサッカーをしたり、飲み連れて行ってもらったことが良い思い出になっています。

新和牧場に就労してからは主に騎乗調教を担当し、BTCの管理する軽種馬育成調教場へも調教のために馬を連れてきていましたが、牧場は生産も行っているため、現在は離乳から騎乗馴致までの中間育成担当の主任となっています。馬の生まれ持った能力を最大限に生かせるホースマンになることを目標に仕事をしているそうです。



「こいつは気が強く油断するとすぐに噛みついてくるんですよ。」と紹介されたダービー馬サクラチヨノオー。田淵さんとは2歳違いで現役の頃のことは知らないそうです。